

# 戦後を必死に生きて

寺坂朝野さん(新野東)

## 戦地へ夫を見送る

夫は昭和17年7月19日に召集されました。3年足らずの結婚生活。神戸市で米屋を営み、子どもも1人できたところでしたが「兵隊に行くんじゃないから、涙は出さねえ」と見送りました。戦争から帰ってきたら、また2人で米屋を続けるために頑張ろう、子どもを立派に大きくしよう。そういう思いでいっぱいでした。

夫が召集されたのは岡山の部隊で、そこから上海を経て、戦死することになる南方のニューブリテ

喜だけ写真  
夫と朝野さん  
唯一の写  
った唯一の写



▲庭で遊ぶ息子さんの写真を戦地の夫に送った

ン島に送られました。戦地に行ってから、子どもの写真を送ったりもしました。夫からももらった手紙を「これがお父さんの書いたとった字で」と子どもに見せたものです。

## 戦死の報が届く

夫が戦死したのは昭和19年3月31歳でした。今でも覚えていますが、戦死の報が届いた日もいつものように掃除をしながら、夫からの手紙を楽しみに待っていました。戦死の報は「こんな簡単なもんで済むんかな」と思うほど、あっさりしたものでした。戦死の状況はなかなか分かりませんが、偵察に出た時に自動機関銃で撃たれてしまったようです。あと少しで終戦を迎えるころですから、本当に残念でなりません。正式に戦死の報が届くと、すぐに夫の親とわたしの親が神戸にきました。家を片付け、米屋を閉め、半年後の9月には夫の実家に帰りました。

夫の遺骨は何度も帰ってきました。遺骨といっても、戦死した場所の石や土です。本当の遺骨は見つかりませんから。夫と同じ部隊にいた人たちが無事に日本に帰ってくるたびに届けてくれたのです。

## 子どものために生きて

夫の実家にはまだおじいちゃんとおばあちゃんが居て、百姓と一緒にしました。3歳だった子どもも、中学に入るまで一緒に牛を使って田んぼを耕したものです。「小さい子どもを一人残してわたしにもしものことがあったら、この子が困る」と思いながら、必死で生きてきました。それが25歳ぐらいの時です。それからずっと農作業をしたり、町内の仕事で山に入ったりと、男性の務めと女性の務めを果たしてきました。その子どもも今では60歳を過ぎ、退職して戻って来てくれました。1人だった息子から、孫が3人、ひ孫が5人にもなると、家族も多くなりました。

3年前、夫が戦死したニューブリテン島に息子が慰霊に行っていました。わたしももう少し若い

れば行くことができましたが、それでもこれでやっとなの荷が降りました。

## もうおしまい

今こうして日本で平和に暮らせるのも、夫のおかげだと思っています。夫を始め、戦死した人々の死が無駄にならないように、この平和が永く続き、戦争が二度と起こらないことを願っています。世界にはまだまだ平和がない国もたくさんあります。みんなが惨めな思いをしてしまう戦争は、もうおしまいにしてもらいたいですね。



## 平和への思いを次世代へ

それぞれの立場から戦争について語ってくれた5人の体験談は、どれも「ひとつの思い」でくくられています。

終戦から65年がたち、子どもたちの親はもちろん、祖父母も戦争を知らない世代となってきました。このような状況の中、戦争体験者の平和への思いを引き継ぎ、平和の大切さを伝えていくことが必要です。

子どもたちは学校で、地域の戦争体験者の語り部(話せる人は少なくなっています)から話を聞いたり、広島などへ修学旅行に行ったりして、実際の戦争や被爆の様子に触れています。そして、国際理解・人権・環境などと関連させながら、多角的に平和について考える学習を続けています。

世界ではいまだに戦争や紛争が絶えません。戦争を知らないわたしたちだからこそ、どうして戦争が起るのか、どうしたら争いがなくなるのか、平和な状態を維持していくためにはどうしたらいいのかを考えていかなければいけないのではないのでしょうか。明日に生きる子どもたちのために...

## 子どもと一緒に読んでみよう(市立図書館司書推薦本)



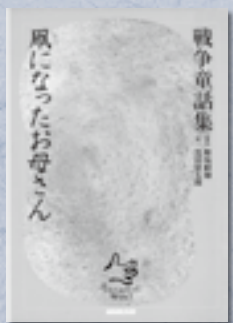
【キャラメルの木】  
上條さなえ・作 小泉るみ子・絵  
(講談社)

「おばあちゃんはね、むかし、うそをついたの」小学生のしんすけの胸におばあちゃんの言葉がコトリと落ちてきました。



【一つの花】  
今西祐行・作 伊勢英子・絵  
(ポプラ社)

ゆみ子が最初に覚えた言葉は「ひとつだけちょうだい」。おにぎりの代わりに1輪のコスモスの花を与え、お父さんは戦争に行きました。



【風になったお母さん】  
野坂昭如・原作 黒田征太郎・絵  
(NHK出版)

昭和20年夏、B29が落としたり焼夷弾は町を火の海に変えてしまいます。お母さんは自分の汗や涙でカッチャンの体をうるおしますが...



【おばあちゃんのひみつ】  
柏原喜久子・作 岡本順・絵  
(KTC中央出版)

「おばあちゃん、昭和20年には何があったの?」仲良し四人組は夏休みの自由研究のテーマに「戦争」を取り上げます。



【嵐 吹きすさぶとき】  
梶田典代・作 日野多津子・絵  
(けやき書房)

太平洋戦争の時代に育った沙代と大輔。2人はかろうじて生き延びましたが、この戦争では大勢の人々が命を失ってしまいます。